



壁新聞講演会

14日の5時間目に、壁新聞講演会がありました。中日新聞社の酒井さんを講師にお招きし、壁新聞についての学習をしました。新聞作りでは、取材、写真を撮る 早く、正しく、わかりやすくをポイントに、原稿を書く 編集会議 編集・紙面をつくる 印刷・発送の5つの工程を経て新聞が作られるという話を聞きました。

次に新聞クイズを行い、新聞社に届く記事は1日7000本。新聞の朝刊には300本の記事が載っている。1日に朝刊を発送する距離は名古屋からパリまでと同じ1万kmという、数字で聞くと驚かされるようなクイズもありました。

そして中盤以降は、文化祭で披露していく壁新聞を作成するにあたって必要なポイントとなる、取材方法やレイアウトの例、見出しの表現方法などを学習しました。生徒達は中学校生活最後の文化祭で、よりよい壁新聞を作成したいという気持ちも相まって、真剣な表情で講話を聞いていました。今後行われる壁新聞作りに大いに役立てていきたいものです。

講話を聞いての生徒の感想文です。

- ・これから壁新聞を作っていく上で、レイアウトと見出しを特に頑張っていきたい。(渡邊さん)
- ・いつもきちんとした内容がなかなか書けないけど、良い新聞を作っていきたい。(澤田さん)
- ・面白い話を聞き出すために、取材される人のことをよく観察して、よりよい記事にしようと努力していることがわかった。
- ・大事なことを少ない文字数でまとめるのは大変だと思った。(以上2つ 日比野くん)
- ・いつもレイアウトや5W1Hを意識しているが、もっと工夫しなきゃと思った。(椎屋さん)
- ・新聞の文章の構成の仕方にはルールがあるとは思っていたけれど、新聞の会社によって違いがあることは初めて知った。(内藤くん)



3E 13日のステキ

昨日は通信を発行することができなかったため、一昨日のステキを先に紹介します。生徒のみなさんにはフライングして昨日の朝のSTで紹介した内容ですが…。

一昨日の4時間目の美術の時間が始まる前、廊下が水びだしになった時があったそうです。美術を担当している伊藤先生が、困った表情で廊下を拭いていると、3Eの女子3人が「手伝います」と言って一緒にぞうきんで廊下を拭いてくれたそうです。伊藤先生はうれしそうにそのことを先生に語ってくれました。素晴らしいステキな行いですね！伊藤先生は「残念ながら一緒に廊下を拭いてくれた生徒の名前がわからなくて…」と言っていました。「その行動をとったのは私だ」と言う人は及川先生までご一報を！！

3E 14日のステキ



掃除が終わり、「壁新聞講演会の準備を」と思いながら、ふと黒板の前に目を向けると、チョークの受け皿には大量のチョークの粉が残っていました。黒板はキレイなのですが、下の受け皿の部分が粉だらけなので、先生は心の中で「黒板掃除の人、頑張っていたけれど80点の出来で掃除を終えたな」と思っていました。先生と全く同じ考えをしていた人が二人もいました。石川さんと澤田さんです。「完璧にするには、ティッシュで拭くといいですよ」そういいながら二人は黙々と黒板の受け皿の部分を掃除し始めました。自分の掃除場所から帰って来て、なおかつ昼放課が始まって間もない時間帯に友達の仕事のカバーをする…とてもステキですね！二人のステキで今朝の黒板は100点の仕上がりです。